

基礎科学研究助成

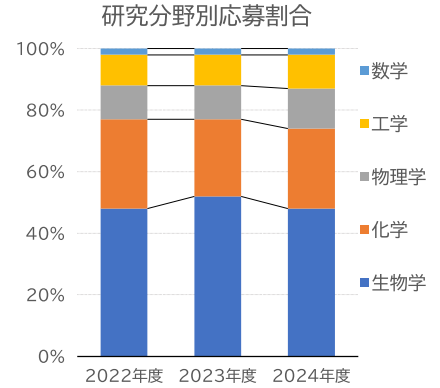
2024年度も、4/15～6/30募集、その後の選考を経て、10月理事会で助成対象が決定されました。昨年度からの変更点としては、助成期間2年を新設し、応募時に1年または2年の助成期間を選択できるようにしたこと、選考委員会の委員長の交代があり、東北大学の大隅典子副学長が新しい選考委員長になられたことなどがあげられます。

【応募状況】

応募件数は979件と昨年度より59件増加しました。分野別に見ると、化学が22件、工学が21件、物理学が20件増加し、生物学と数学は2件ずつ減少しました。この結果、生物学が圧倒的に大きな割合を占める状況に変わりはありませんが、昨年度の52%から48%に減少しました。

申請金額の平均は348万円と昨年度より14万円増加し、過去最高を更新しました。物価の上昇に加え、助成期間2年の新設がその要因と考えられます。

応募者の平均年齢は40.9歳、昨年よりさらに0.3歳高くなりました。



【選考・採択状況】

選考は、例年通り選考委員長を含む13名の選考委員によって、2回の選考委員会を通じて実施されました。選考委員会の構成メンバーが、選考委員長を含め7名入れ替わり、初の女性委員長のもとでの選考委員会となりました。今年度の採択件数は71件となり、昨年より14件減少しました。採択件数の減少は3年連続となっています。助成金総額は1.5億円が変わっておらず、助成金額の1件平均211万円は、1995年度以来の200万円を超えとなりました。助成金額充実への意識が反映されたものと考えられます。

また、助成対象者の平均年齢は39.2歳となり、昨年より0.5歳低下しました。応募者の平均年齢が昨年より0.3歳高くなっていることを考えると、若手優先の採択意識が反映されたものと考えられます。

【採択された研究事例紹介】

最近米不足が話題になりましたが、イネに関する研究で今回採択された女性研究者をご紹介します。

広島大学 大学院統合生命科学研究科 准教授 田中 若奈さん

研究テーマ:「植物ホルモンの役割から探るイネ腋芽幹細胞新生の分子基盤」

○応募のきっかけ

住友財団のホームページから、本研究助成が、基礎科学分野の若手研究者による萌芽的な研究を積極的に支援していることを知りました。その理念に深く共感し、私の研究に適した助成制度であると感じたことが応募のきっかけです。

○助成が決まった感想

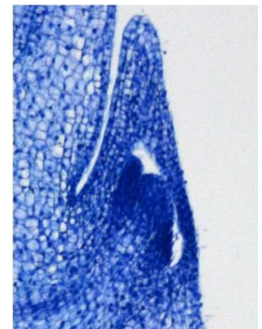
自身の研究の重要性を評価していただいたことを大変嬉しく思っております。この機会を通じて、良い成果を上げられるよう一層努力する意欲が高まりました。

○この研究テーマを取り上げた理由

植物の発生・成長には、各種の幹細胞の働きが重要です。しかし中でも、植物の枝を生み出す「腋芽幹細胞」に関する研究は非常に限られており、その新生に関わる遺伝子の仕組みについては十分に解明されていません。私たちのグループでは、以前からモデル植物イネの腋芽幹細胞に着目した研究を行ってききましたが、その研究の過程で偶然、ある植物ホルモンが腋芽幹細胞の新生に関与している可能性が浮上りました。この植物ホルモンの役割を詳しく調べることで、腋芽幹細胞の新生の仕組みをより深く理解できるのではないかと考えたことがこのテーマのきっかけです。

○この研究の可能性と今後やりたいこと

イネの腋芽幹細胞に関する基礎研究は、イネの品種改良にも貢献する可能性を秘めています。腋芽幹細胞の新生は枝の形成につながり、枝の形成はお米の収量に直結する穂数を決定する重要な要素であるためです。まだまだ先のお話ですが、将来的には、本研究によって明らかにした腋芽幹細胞の新生の仕組みを活用して、お米の安定供給や増産につながる育種技術を開発できればと考えています。



イネの腋芽幹細胞組織
(青い色素で染色)